

2011 年 (平成 23 年)

新春号

[第 20 号]

発行 東京鉄構工業協同組合
 〒 104 東京都中央区八丁堀 3-9-5 KSビル6階
 - 0032 TEL: 03 (5566) 1595
 FAX: 03 (5566) 1597

Tokyo
Steel-rib
Fabricating
Association

Report

東構協

<http://www.tsfa.jp/>

平成23年賀詞交歓会 (1月27日 於・銀座東武ホテル)



我が天職に誇りを持とう

理事長 飯田 歳樹

昨年とは異常気象にて猛暑が続き、またゲリラ豪雨に見舞われ、思いもよらない被害が続出した一年でした。われわれ建設業も御多分にもれず明日がない経営を強いられているのが現状だと思います。

しかし、よく政治や経済のせいにはされませんが、すべての面で山高ければ谷深しであり、世界的な不況は私たちの力ではどうする事も出来ません。なるようにしかならない現実の中で、企業

は存続をかけてもがき苦しみ、明日を夢見て忍耐と我慢の連続に直面するのが昨今の経営者だと思います。

鉄骨業界も首都圏のマーケットをターゲットに地方ファブが量だけを求めて上京する最悪なパターンを続けており、到底ビジネスとは呼べないであろう安値受注に走り、経営の行き詰まりを認識しながら自転車操業が続いていく現状は好ましくありません。

原点に戻り、物作りのすべての面において経営者は、『誇り (ポリシー)』を持って『マナー、企業論理』を守り、『利己主義的な経営』を反省し、天職の誇りを持った良い製品を作る経営を

心がけましょう。

現在、全国的にファブ加工能力 700 万トンのキャパシティに対し、需要が 400 万トに減少しており、その 57% の総量を巡ってファブ、一次加工業者が指し値以下の受注競争に明け暮れています。現状はサバイバルゲームそのもので、一般常識では考えられません。経営に対する理解力、判断力を失ってはいないでしょうか。

このまま互いの首を絞め合い破滅の道へと進む事は好ましくありません。我が組合だけは情報交換をより密にして共生・協調にてこの難局を乗り越えましょう。 (飯田製作所社長)

組合理事役員 年頭のあいさつ

ポエム 「ものづくり」



理事
相談役

池田 英敏

「ものづくり」の基本的な考え方は変わらない。時代が変わろうが、技術が変わろうが、会社が小さかろうが、大きかろうが、組織が変わろうが、または環境が変わろうが、考え方は変わらない。技術・品質を追い求める考え方は少しも変わらない。

「ものづくり」には、適正な価格が必要だ。利益は企業の目的ではないが、事業を継続するために最低限必要な条件だ。様々な難しい要求に応じて顧客の信頼を得るのだから。

「ものづくり」は人づくりでもある。技術の伝承を怠るな！！

「ものづくり」は、連帯感や達成感という感動の喜びを知ることができる。それを知っている人と知らない人では、人生の深さ、大きさが違ってくる。決して背伸びはすまい。最近、少し自信を失いかけているが、目先の欲

得に心を奪われてなるまい。将来大きなものを失う羽目になる。

「ものづくり」に携わる人は、倫理感を持ち、正しいことを正しくやることに使命感を持たねばならぬ。

「ものづくり」の姿勢は、いつも夢を興し、夢を追いかけ、夢を語っている人になるため希望を持ち続けることが肝心だ。人間の言動はどこかで誰かに観察され、そして評価されている。

(池田鉄工社長)

神代のはなし



副理事長

総務・広報委員長

松田 清明

われわれ鉄構業界の窮状はまだ続くかと思われませんが、新年早々暗い話をしたくはありませんので、今日はわたしが昔から抱いている小さなノスタルジーをお聞きください。

10数年前、所属するロータリークラブの卓話で自分の職業について話することとなり、鋼構造ジャーナルの田中社長に「何か参考になるものはありませんか」と尋ねましたところ、『鉄構技術』（1995年2～7月号）に連載された石黒徳衛氏の「鉄のメルヘン街道」をまとめた小冊子を頂きました。わたしも日本の古代史に興味を

持っており、ちょうどその頃、原田常治著『日本古代史』を読んでおりましたので、両者に共通するテーマの「鉄とスサノオ」について話したことを思い出しながらダイジェストにまとめました。

世界で初めて鉄の文明を築いたヒッタイト帝国からアジアの東端にある日本にたどりついたという鉄の伝播ルートは幾通りかありますが、「鉄」が日本で最初に歴史（神話ではありませんが）に登場するのはスサノオノミコト（須佐之男尊、素戔嗚尊などと表記）との関係においてであり、鉄は朝鮮語で「ソエ」と言い、「ソ」に素・須・蘇の字を当てます。語源をみると、スサノオノミコトというならば「鉄屋の若大将」という意で、本名は「布都斯（フツシ）」と言いました。蒙古・満州系統の名前です。ヤマタノオロチを退治して稲田姫を救い、妻としたスサノオはその後、出雲を制圧し、海路を使って北陸・越中・越後を手中におさめ、九州北部・東部・南部を支配下に置きました。大和を五男オオトシ（ニギハヤシノミコト）に治めさせ、同じく一緒に遠征した娘婿のオオクニヌシノミコトに九州経営を譲り、自分が出雲に戻って波瀾万丈の生涯を終えました。

これではまるで「講師師見てきたような嘘を言い」ですね。しかしながら、歴史というものは奥が深く、「スサノオと卑弥呼との関係」、「魏志倭人伝にある女王と男弟」、「邪馬台国の位置」、

第20回通常総会を開催

—青年経営者委員会—

当組合の青年経営者委員会（吉岡晋吾幹事長）は昨年6月24日、東京国際フォーラムで第20回通常総会を開催、新年度の事業計画や予算などを承認した。

吉岡幹事長は「仕事量の激減と鋼

材価格の高騰で苦戦を強いられるなか、今まで以上に情報交換を密にする必要がある。`協調・協力、を基本方針に会員数を拡大するとともに、他県との交流の輪を広げ、次世代を担う経営者や候補者によるネットワークを構築したい」と語った。

新年度事業計画では情報網の拡充をテーマに構造設計者との意見交換

会や他県青年部との合同研修会を開催する方針だ。



「古事記のアマテラスと乱暴者の弟スサノオとの本当の関係」、「イスケヨリヒメとイワレヒコの結婚の裏話」、「神武天皇東征か東遷か」、「神武に抵抗したナガスネヒコとは」など、想像をめぐらせば楽しい疑問があとからあとから浮かんでいきます。ゆとりができたならそれらの現場検証に行ってきたいとも思っております。これがわたしの小さなノスタルジーです。

(松田鋼業社長)

飛躍の年



副理事長
共済事業委員長
武田 忠義

「昨年が底」こんな記事が見られるなか、新聞を広げると都内だけで大型プロジェクトの計画・始動物件の合計が100万トン超との文字が伺える。しかし、私の住んでいる町を歩いても、タワークレーンらしきものは見当たらない。都市部近郊の中小物件の不透明感を肌で強く感じる。

私は約40数年間この鉄骨業界に携わっているが、昨年ほど業界全体が悪

かったという記憶はない。バブル崩壊期でも仕事はあった。しかし、昨年は全然と言ってよいほど仕事がなく、あったとしても単価が厳しい。このような状態が続けば若手社員のやる気が損なわれてしまう。しかしながら、わたしは、「どんなに厳しい時でも前を向いて歩いて行こう。そのうち晴れる日が来る！人生明るく行かなければ晴れは来ないぞ」を持論としており、こうした言葉をかけて若者の尻を叩いている。そのせいか、我が社では下を向いている者は一人もいない。実に素晴らしいことだ！これからも「頑張っていこう」。

わたしは経営陣として雇用の確保を第一に考えるとともに、自分が手がけてきたすべてのことを後の世代に受け継がせなければいけないと考えており、少しずつではあるが取り組んでいる。今後、仕事の遺伝子を受け継ぐ若者が上手く育ち、より良い企業になればと思っています。

卯年（うさぎとし）の今年、念頭の挨拶で「兎の様に耳を立てて情報を収集し、兎の様に跳躍し仕事をキャッチする様に」と語ったが、皆が真摯に耳を傾けてくれた。社員一同と一丸となった嬉しい瞬間だった。

(叶産業相談役)

戦争とは矛盾を解決するための最高の闘争形態である

(『毛沢東語録』より)



副理事長
経営近代化委員長
鈴木 貴久

上海のアンティークショップを覗くと必ず毛沢東バッチが並んでいる。なんだ、「またニセモノかい？」と思いがちだが、実は38億個も生産されたというので、間違いなくデッドストックでしょう。さらに『毛沢東語録』は65億冊だから、想像を絶する、という陳腐な言葉しか浮かばない。当時の結婚披露宴は、引き出物用に語録の山積みが普通だったそうだ（笑）。ところで、毛沢東グッズはプロパガンダポスターとともに欧米人に人気があり、上海にイギリス人の経営する「マオ・ギャラリー」という専門店があるほどだ。プロレタリア文化大革命の産物は共産主義色が色濃く反映されて、実に趣がある。そういうお店を冷やか

鉄骨製作管理技術者準備講習 2級に103名が受験

当組合は昨年9月25日、東京都千代田区の総評会館で「鉄骨製作管理技術者」受験準備講習会を開催した。同講習会は10月16日の鉄骨製作管理技術者試験に向けた準備講習会で、1級を対象にした11日の講習会に引き続き、今回は2級受験者を対象に実施。東京をはじめ関東近郊のファブなどから103名が受

講した。

当日は、羽石良一氏（さくら設計事務所）が講師となり、①建築法規②鉄骨構造③品質管理④鉄骨加工⑤安全管理の各分野で過去に出された問題の傾向を確認しながら問題の解き方や要点を解説。試験に臨む心構えとして、「試験問題の概要と分野ごとの要点をしっかりと把握しながら、各自の学習ポイントをチェックする必要がある。試験問題は実務の必要知識であり、いわばその復習といえよう」と述べた。

講義の終了後、受講者たちは本番を想定した模擬試験に挑んだ。



していると、なんだか文革も今は昔と
思いがちだ。

中国との取引や研修生制度の採用な
どで隣人である中国人と接する機会
が多いと思う。付き合ってみると、「別
に・・・」と感じるものの、何とも言え
ない違和感がつきまとうのも事実。「誠
意が通じない」という感覚といえ
ば近いかも。中国の革命開放で、な
んだか身近のように思うが、脳内に
毛沢東思想が刷り込まれている。な
んせ毎日全人民が暗唱していたのだ。

そこで、中国人とは何か？この解に
かつて紅衛兵が振りかざした『毛沢
東語録』を押さえておくとうわりや
すい。ここに現代中国人的発想のエ
ッセンスがある。彼らの発想の原
型はそもそもこの当時からこういう
風が存在したのかとよくわかる。唯
物論こそが共産主義だという考えは、
唯物を唯金と読み替えるとわかりや
すい。日本人と似て非なる民族に
迎合することなく、友好する以前に、
一読してしっかりと認識しておく
べきだろう。

さて、皆様、中国リスクとどう向き
合う？

(那須ストラクチャー工業社長)

チームワーク



副理事長
青年経営者委員会
幹事長
吉岡 晋吾

野球好きが高じて、地元の仲間を集
めて草野球チームをつくり、さら
に対戦相手のチームをトータル10
チーム集め、リーグを立ち上げまし
た。リーグ名は「Eリーグ」(エン
ジョイリーグ)。今年で13年目を
迎えます。一年を通じてリーグ戦
を行い、優勝を争っています。

ちなみに、わたしのチームのメン
バーは、ゼネコン、鉄骨、ALC、
内装、塗装、防水、とび、土工、
大工なぜか建築業に携わる人が
多く、メンバーだけで建物を建
てることも可能です。お互いに業
種は違いますが、勝利という目
標のために一致団結し野球を楽し
んでいます。

試合は、通常、日曜日の昼間に行
われます。試合後の反省会と称す
る飲み会では、不思議と勝ち負け
に関係なく

終始和気あいあいとしており、そ
のまま二次会まで突入する場合
があるため帰宅が深夜になること
も。翌日、各人が違う意味で反省
することになることがよくあるの
です。

しかし、これもチームワークの一
環で、お互いにチームの勝利のた
めに各人の力と知恵を合わせること
が大切です。それがチームの活
性化につながり、最終的にはリ
ーグの発展に繋がっていくものと
信じています。

これからも体力の続く限りが
んばりたいと思っています。信頼
できる仲間づくりは、どの世界
でも一番大切なことに違いは
ありません。

(吉岡工業専務)

「和」を持って前進



理事
森 明

昨年の日本を表わす漢字が「暑」
がありました。これは国民投票で日本人

地元ファブの優先起用求める

—都内鉄構3団体—

当組合は1月20日、鉄工建設業
協同組合(理事長=國谷七三夫・國
谷製作所社長)、東京足立鉄骨工業
会(会長=庄司義明・庄司鉄工建設
社長)の鉄構関連の団体と地元専門
工事業者の優先起用を求め、東京
都庁と江東区役所に陳情した。陳
情は東構協のWGが中心となり、陳
情先や要望事項など検討を続け、
都内の関連団体である鉄工建と
足立工業会にも参加を呼びかけ
実現した。陳情活動は、今回の
都庁を皮切りに今後、国土交通省、
都内23区な

ど発注機関を対象に継続実施して
いく。

都庁では都議会の木内良明議員ら
に、鉄骨業界を取り巻く極めて
厳しい受注環境を説明。そのうえ
で建築鉄骨や耐震補強の公共工
事の発注において元請けに対し、
下請契約における受注者の選定
にあたり、①環境保全・二酸化炭
素削減②地元企業の育成と地域
経済の活性化③雇用の保護・安
定と就労機会の拡大④税収財
源の確保と納税企業に対する還
元—などの観点から、「地元専門
工事業者を優先的に採用、選考
するよう指導徹底を」を盛り込
んだ陳情書を手渡した。

引き続き、江東区役所を訪れ、
佐藤哲章副区長らに業界が置か
れている窮状を強く訴え、同様の
要望を行った。

飯田理事長は「手応えは十分。
活動は長期に及ぶだろうが、業
界が少しでも明るさを取り戻せ
よう今後も頑張りたい」と意気
込みを述べた。



の思いを一字の漢字で表したものです。

さて、改めて自分の思いを考え合わせ、新年にあやかって今年を表わす願いの漢字を選んでみますと、国に願うなら「成」、家庭では「平」、我が組合では「和」といったところでしょうか。とかく閉塞感のある今の社会情勢下であって、夢と希望を漢字に託し、持ち続ける覚悟を考えてみました。

昨年末、二人の日本人科学者がノーベル賞受賞の栄誉に輝きました。生涯を賭けた研究の成果を世界万民に讃えられ、国の宝として、貴重な財産として、国の内外を問わず社会に貢献されることでしょうか。一方、同じく社会貢献に寄与し、受賞の栄誉に輝くはずの中国の民主活動家が、その成果を国の指導者に認められない事は残念なことです。

アメリカのオバマ大統領も、その前年に平和活動の貢献をたたえられて受賞の栄誉に輝き、大いにその成果が期待されたことも忘れられません、今年こそ大なる成果が期待されます。そして何よりも、この日本で、この日本を代表する現代の竜馬が現れて、明治維新の改革ならぬ、平成の改革と成果を挙げていただき、「成」なる漢字が投

票される事を願ってみました。

また、今年1年、我が東構協には「和」を持って前進されたく願っています。

(日本鉄構建設工業会長)

日々思うこと —40歳の春—



理事
Mグレード部会長
谷村 忠行

毎朝5時半に起き、6時には会社に行く。何の迷いもなく毎日続けている。雨の日も、二日酔いの日も、風邪の日も毎日だ。大学を卒業後、ゼネコンに入社して5年間務め、結婚して子供を授かり、父親の会社に入社した。早くも13年目に入ろうとしている。

職人よりも早く出社することだけは、入社以来続けている。「継続は力なり」とは言うものの、「本当に力はあるのか?」、「経営者としての自覚はあるのか?」、「仕事は3カ月後、半年後にもあるのか?」、「社員50人の家族を守ることができるの

か?」と自問自答することもしばしば。少なくとも、自分が見ていた親父の背中は大きくて格好良かった。3人いる自分の子供たちの眼にはどう映っているのだろうか?

今年、社長になって早くも5年目を迎える。以前、「(社長になって)3年間黒字だったらホンマもんだ」と発破をかけられたものだが、どうにか4年間は黒字を維持できそうだ。プロスポーツ選手と同じで、どの世界も過程より結果がすべてであり、そこにキレイごとはいらないと思う。本当に強い選手が必ずしも上手でなくてよいように、本当に強い会社は必ずしも大きくなくてよく、結果さえ出せばそれが「強さ」と認められる。その意味で本当に強い経営者になるべく、一日一生という理念に基づき、この厳しい時代を駆け抜けたい。そして楽しみたい。どんなにお金があっても、どんなに権力があっても、時の流れは誰にも止められないからだ。

最後に、自分が信じている処世の辞として、福沢諭吉先生の「一生のなかで一番楽しく、立派なことは、一生涯を貫く仕事を持つことです」との言葉を紹介し、結びとしたい。

(谷村製作所社長)

第3期・第1回講義行われる

—東構塾—

「東構塾」の第3期・第1回目となる授業が昨年2月20日、東京都中央区の組合会議室で開かれた。

第1部の特別講演では、信用調査会社である東京経済の井出豪彦情報副部長が建設業界の現況と見通しを説明。「政権交代に伴い、名目建設投資の見通しは当初予想から大幅に下方修正された。とくに、10年度予算の概算要求では公共事業費が一気に1兆円(17%)削減され、ゼ

ネコンは公共工事への依存度が高いほど厳しい状況に置かれる」と述べた。その上で、ファブによる与信管理の重要性を強調するとともに、決算書の見方のポイントを解説。「建設会社の売上高は完成工事高を示し、建設業のように受注時と収益時のタイムラグが大きい業種は損益計算書が直近の営業成績を表さない。業績の先行指標としては受注高に注目する必要がある」と指摘した。

第2部では、宇留野塾長が『財務3表一体理解法』(國貞克則著、朝日新書)をテキストに用い、会計・

財務の仕組みと財務諸表の読み方を講義した。「これからの企業経営の基本として、取引先の決算書を分析するノウハウを身につけてもらいたい」との考えからこのテーマを選んだもので、今後は分担を決めてゼミナール形式で授業を進めていく。



仲間



理事

R・Jグレード部会長

坂爪 幸男

みなさんもご存じのように、先日、早稲田大学の齋藤佑樹投手が東京六大学野球秋季リーグにおける優勝決定戦後のインタビューで、「自分には何かを持っていると言われ続けてきました。今日は何を持っているかを確信しました…それは仲間です」とのコメントがありました。当たり前ですが、仲間の持つ意味、大切さ、重要性を深く考えさせられたコメントだと思います。

人は何かを成し遂げた際、「自分が何々をした」と思いがちです。もちろん、本人の努力なしでは何も出来ませんが、実際は周りの人達の協力の賜物であることが多いものです。

誰しもいつかは、自分の成功が他人

のおかげでもたらされたものだと分かるはず。そこで、日頃から家族、社員、同業者、取引先に感謝の念を忘れず、自分ができることに集中し、謙虚にかつ人のためになるように願い、思うとき、真の成功がやって来ると信じながら、来るべき新しい年を迎えたいと思います。

(坂爪建鉄工業社長)

新年を迎えて



理事

杉本 豊

組合員の皆様には日頃から当組合発展のためのご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、皆様も御承知のように、零細ファブを取り巻く経営環境は依然厳しいものがあります。組合員各社とも様々な方法で経営の改善に取り組んで

おられると拝察いたしますが、業績の早急な回復が強く望まれるところでございます。

このような中、東構協では地域経済を支える中小ファブに働く方々に対し、これまで以上に魅力ある事業の充実が図られねばなりません。さらに、近年の著しい経済の変化に中小ファブも強い意志をもって対峙し、経営革新に挑戦していかなければならないと痛感しております。そこで、鉄構業ならびに各地区の振興発展のために組合員が一丸となって全力で事業に取り組んでいく必要があります、ぜひとも皆様のさらなるご支援とご協力をいただけますようお願い申し上げます次第であります。

以上、簡単ながら新年を迎えての所感を述べてまいりました。最後に、景気の回復を切に願いながら、本年が皆様にとりまして一層の飛躍の年となるとともに、「元気で、明るく、健やかな」年となりますよう祈念申し上げ、わたくしからの挨拶とさせていただきます。(一本木鉄工社長)

協力会活動報告



協力会会長

石塚 勲

東京鉄構工業協同組合の賛助会から協力会へと変わり、早くも4年が過ぎようとしております。元々、賛助会時代はほとんど活動していませんでしたが、07年3月に新たなスタートを切り、発足時6社だった会員が、組合員各社のご協力もあり、今では20社となっております。

以下、この4年弱にわたる協力会の活動を報告します。

【07年度】

- ・賛助会解散および協力会発足
- ・役員会(随時)
- ・協力会規程の作成、改訂
- ・組合行事への参加

①総会②3県合同Mグレード連絡協議会③西地区会④新年賀詞交歓会

【08年度】

- ・役員会(随時)
- ・協力会総会
- ・組合行事への参加

①総会②新年賀詞交歓会

【09年度】

- ・役員会(随時)
- ・協力会総会
- ・組合行事への参加

①全国Mグレード連絡協議会(商品展示と懇親会)②総会③新年賀詞交歓会④各地区会(東地区会=2回、中・

西地区会=2回)⑤定例理事会時の宣伝

そして今年度ですが、今まで同様に各種組合活動へ参加させていただいております。なかでも、「定例理事会時の協力会員によるPRタイム」については年間予定を組み、毎月2社ずつ順番に参加・宣伝をさせていただいております。また、各地区会でも協力会の紹介に時間を割いていただき、担当者の自己紹介や商品PRをさせていただいております。

このように少しずつではありますが、組合員様と協力会員との距離が縮まってきていると思われま。す。「組合あつての協力会」ですので、今後とも皆様のご協力をよろしくお願ひ申し上げます。(富士見興業社長)

戦争の記憶



東構塾塾長

宇留野 清

終戦の年、わたしは国民学校（小学）2年生で水戸の郊外に住んでいた。昭和19年の終わり頃から時々警戒警報が発令されるようになったが（空襲警報と警戒警報はサイレンの連続音と断続音で区別されていた）、20年の2月頃（と記憶している）までは戦争の実感はほとんどなかった。

ある時、B29の数機編隊が高空を飛んで行くのが見られ、近くの陸軍飛行場の高射砲から発射された砲弾が炸裂するのを目にしたものだ。砲弾はB29までは全く届かず、かなり下の方で炸裂していたのを覚えている。B29は編隊を崩さずに悠々と飛んで行った。その当時の大本営発表では、B29が鹿島灘方面へ逃走中と放送し

ていた。

20年の2月頃と記憶している。数10機の戦闘機（多分グラマンが主）が水戸の北にある勝田の軍需工場を機銃攻撃したとき、数機の日本の飛行機との空中戦があったが撃ち落とされるのは日本の飛行機ばかりであった。もうこの時には日本側には練度の高いパイロットは残っていなかったと思われる。

その後、日立の日立製作所が艦砲射撃を受けたときには、水戸からはかなり離れていたため遠雷のような音が聞こえ、しばらく続いていたが静かになった。それからしばらく（1時間足らず）して、突然強烈な音がした。今度は近くの勝田の軍需工場が砲撃を受けたのだ。この時、家の前の畑と前の家の庭に砲弾の破片（50～60cm位）が飛来した。家を直撃されていればかなりの被害があったと思われる。

水戸が空襲を受けたのは、8月1日の夜であった。空襲警報が鳴り、しばらくして照明弾が投下されてかなり明るくなり、その後に焼夷弾の投下が始まった。この時は家の裏の田圃の中の

小川に避難した。その場所から100m程のところになら女学校があり、そこに焼夷弾が落ち瞬間に燃え上がったのを覚えている。自宅は近くに幅3間位の堀（備前濠）と道路があったおかげで延焼を免れたが、通っていた学校は講堂と付属の幼稚園の校舎を残して全焼していた。その2、3日後、不発弾を見つけに行き、径10cm位、長さ60cm位の六角形の筒の中に黄色いゼリー状の可燃物が入っていてそれを取り出し火を付けて遊んだ。それを川に投げ入れると川面を燃えながら流れていった。

最後に、終戦の日の記憶について。その日は、朝から晴れていて暑かった。正午に重大な放送があると大人が話していたのを覚えている。天皇の声を聞いたのは覚えているが、何を話したかはまったく分からなかった。ただ、あの独特の話し方の記憶は残っている。その翌日（かどうかは定かでない）飛行機が飛んできてビラを撒いていった。そのビラには「厚木航空隊は降伏せず」と書いてあった（自分で読んだかどうかは定かでない）。

駒井鉄工とアイ・テックを見学

—東構塾—

「東構塾」は昨年7月23日、特別課外研修として駒井鉄工富津工場とアイ・テック東京工場を見学した。「同業大手の加工技術や鋼材流通の現状を学びたい」として企画したもので、塾生ら総勢15名が参加した。

Sグレードの駒井鉄工富津工場では、見学に先立って塚本勝雄副工場長が工場概要や鉄骨の製作工程を説明。現在建設中で、部材加工が最終段階を迎えた都内の著名大型案件にふれ、「加工計画と製品輸送の段取りから高強度部材の取扱いに至るま

で未体験の連続だった。最初は戸惑いながらも各部門が連携を取って品質向上に努めた結果、人間の技術（わざ）に限界はないと実感した」と語った。

次いで一行は鉄骨加工棟内のBOX柱生産ラインのほか、高強度鋼管の25度開先が可能なパイプコースターなどの設備を見て回り、見学後には高精度の加工技術や管理手法、大型物件の採算性について活発な質疑応答が行われた。

続いて訪れたアイ・テック東京支店・工場では、円谷哲支店長と鈴木一聡工場長の案内で□1000³に対応したコラムの切断・開先機やC

形鋼の製造ライン、Hグレードを取得した鉄骨製作エリアを見学。鈴木工場長は「荷動き不振から在庫量はピーク時の3分の2に減らした。鉄骨製作は梁加工を主体に月産300ト前後と苦戦している」と現下の厳しい状況を説明した。



理事役員会報告



◆1月臨時理事会◆

□1月29日、於・銀座東武ホテル□
来年度の総会は改選期ではないものの一部役員交代を審議にかけるとの予定で、そのための役員人事を協議する必要があることから、臨時理事会の開催を決めた。当日は予算案、事業計画案もあわせて検討しほか、現在急ピッチで進んでいる組合ホームページのリニューアル作業の進捗状況が報告された。トップページには「信頼される高品質の鉄骨工事」をキャッチフレーズに掲げ、組合概要、鉄骨工事、耐震補強、技術教育、事務局だより、東構協カレンダー、リンクの各ページでサイトが構成される。また、組合員の検索は企業名（五十音順）、グレード、扱い商品などの項目を選択して行い、地図一覧からも探すことができる。

◆2月理事会◆

□2月17日、於・組合会議室□
理事会では3月5日に臨時理事会を開催するにあたり、当日の議題を協議。来年度の事業計画案などを話し合うほか、今年度の耐震補強工事で受注実績の上位3社を選出し、表彰することを決めた。

◆3月臨時理事会◆

□3月5・6日、於・箱根パークス湯本□
来期の役員人事を協議。改選期ではないものの、諸般の事情から池田理事長が任期を1年残して退任することとなったため、次期理事長には飯田歳樹副理事長の昇任が内定した。理事長交代に伴い、各委員会の委員長をはじめ理事の役割分担を見直すこととした。

◆3月理事会◆

□3月25日、於・組合会議室□
前回臨時理事会で継続審議とされた役員人事の見直しについて再び協議。臨時理事会では池田理事長が任期を1年残して退任することが承認され、来期の役員体制を協議したものの、改選期の変更を視野に入れた調整が必要とことから結論は先送りされていた。
検討の末、副理事長1名の交代と担当委員の入れ替えに係る人選は次回の理事会まで持ち越しとした一方、「この機に全構協の人事年度に合わせたい」との意見で一致。改選期の1年前倒しを決めた。現職の理事全員は辞表を提出し、通常総会で改めて役員を選任を行う。

このほか、建築鉄骨構造技術支援協会（SASST）への入会の是非を協議。加入する方向で打診することを決めた。トラブル事例に対するSASSTとの質疑応答の内容は組合員全員に周知徹底し、「一層の技術向上に役立てたい」とする。

◆4月理事会◆

□4月25日、於・組合会議室□
継続審議とされていたSASSTへの入会の是非を協議。「鉄骨工事を巡る技術的な問題が発生した際、学識経験者のバックアップを得ることで無用なトラブルを回避できた」事例を踏まえ、正式に加盟を決めた。SASSTがこれを承認すれば、組合単位での入会は今回が初めてとなる。

組合では、トラブル事例に対するSASSTとの質疑応答の内容について組合員全員への周知徹底を図り、「一層の技術向上に役立てたい」考え。

このほか、通常総会に備え、式進行の役割分担や議案書の内容などを協議。総会に提出する10年度の事業計画の最終案をまとめた。また、理事の改選を行うことから、役員体制を見直し、副理事長を6名から5名に削減するとともに、理事を11名から12名に増やす方向で調整することとした。

◆5月理事会◆

□5月27日、於・組合会議室□
約1年前から森明教育・技術委員長（日本鉄構建設工業会長）を中心した実行委員会が組合HPをリニューアルするための作業を進めており、HPの顔となるトップページのデザインを決めるため、理事会にレイアウト案を提出。協議の結果、メインメニューバーの下に組合員用のメニューバーを配置した案を採用することとした。

このほか、新規入会を申請していたテッコー（本社・東京工場＝東京都大田区、西山哲夫社長）の加盟を承認した。同社は本社工場のほか、茨城県内に加工の主要拠点（茨城工場＝北茨城市中郷町）を有し、主に橋梁関係の部材を製作する。両工場合わせて従業員数は22名、年間加工能力は約840ト。今後、入会を機にグレードの取得を目指すという。



◆6月理事会◆

□6月22日、於・組合会議室□
東構協は独自に「Mグレード以下の実務を想定した」代替エンドタブ技能検定試験を実施、「将来的には全国に普及させるべく、手始めに近隣諸県に同一基準の採用を勧めていく」考え。全国Mグレード部会連絡協議会の協力が得られることとなり、共同して普及に取り組んでいく方針を固めた。

このほか、同業他団体との連携の在り方や東京都への陳情活動の是非などを協議。同業団体との連携については、技術面の提携関係を強化し、さらに親睦を深めたいとした。

また、飯田理事長は陳情活動の再開を提議。東京都が発注する物件の請負業者に対して下請け業者として地元企

業の積極的な採用を指導するよう求めるとともに、物件の難易度や規模に応じた適切なグレード指定がなされるよう要望していくことを決めた。



◆ 7月理事会 ◆

□ 7月27日、於・組合会議室□

東構協では組合HPのテスト版が完成したことを受け、ページデザインやコンテンツを確認した。今後、一部の未完成ページのデータ入力を進め、8月1日から運用を開始する。

このほか、東京電機通信（本社＝東京都新宿区、遠藤裕二社長）による協力会への加盟申請について審議し、全会一致で承認した。同社は通信機器、事務機器の販売、施工、保守などを手がけ、業務用リサイクルトナーの製造・販売も行う。

◆ 9月理事会 ◆

□ 9月29日、於・組合会議室□

昨今の需要低迷から、都下の物件では規模を問わず、地方ファブや鋼材商社の介入によって受注競争が激化。理事会では行政に対して地場産業の保護を訴え、地元優先発注を働きかけていくことを決議した。具体的な質疑・陳情事項や活動スケジュールを検討するワーキンググループを立ち上げ、理事の中から6名のメンバーを選出した。

飯田理事長は、「陳情を足がかりに役所との接点を開拓し、分離発注などへの道筋を築きたい」考え。今後は、鉄工建設業協同組合や東京足立鉄骨工業会との共同歩調で進めることも視野に調整を図る方針を固めた。

◆ 10月理事会 ◆

□ 10月26日、於・組合会議室□

地元優先発注の陳情活動を推進するワーキンググループの第1回会合を11月半ばに開き、要望項目などを検討することとした。

同WGの構成メンバーには、飯田理事長をはじめ7名の理事らが名を連ねる。11月16日に組合会議室で1回目の会合を開き、陳情対象の選別、具体的な質疑・要望事項や活動スケジュールについて検討することを決めた。

今後は、都内の異業種団体などとも連携して地元優先発注の実現に向けた条例の見直しや制定を求めていくほか、公共事業に従事する労働者の適正な賃金・労働条件の確保を実現するための公契約適正化運動の前進に注力する考えだ。

◆ 11月理事会 ◆

□ 11月25日、於・組合会議室□

地元優先発注の陳情活動を推進するために立ち上げたWGが要望項目などを協議し、その成果を踏まえて要望書の素案をまとめた。

理事会では、素案の内容について検討。WGの案を全面的に承認し、一部の表現を修正した上で、早ければ来年1月にも都議会民主党に陳情書を提出

する方針を固めた。

このほか、現在見直しが進められている共同積算システムの運営方法について協議した。検討中の新たなシステムでは原則として建設地県の組合事務局が物件情報の処理を行うこととなり、「物件数が集中する東京は、過度な負担が予想される。代理名寄せを利用し、情報を一括管理してきた群馬県組合事務局に従来通り当該業務を委託する方が望ましい」との考えで一致。関東支部会で見解を報告する。



◆ 12月理事会 ◆

□ 12月14日、於・組合会議室□

陳情活動の進め方を協議。年明けに東京都へ第1回目の陳情を実施した後、都内23区と市町村などへも活動の範囲を広げたいことから、年内に訪問先のリストアップを完成させることを決めた。また鉄工建設業協同組合、東京足立鉄骨工業会との調整が済み、3団体連名で推進することで正式に決まったことが報告。陳情を実施する際、同2団体から代表者を派遣することとなる。

同時に、区議会議員など関係各方面と接触を図りつつ、より効率的・効果的な陳情の進め方を模索する方針だ。

平成 22 年度通常総会開く

新理事長に飯田歳樹（飯田製作所社長）氏

当組合は昨年5月27日、東京都中央区の銀座東武ホテルで第24回通常総会を開催。任期途中ながら全構協の改選期に合わせるため役員選挙を実施し、新理事長に飯田歳樹

副理事長（飯田製作所社長）を選任した。また、池田前理事長は理事相談役に就いた。

総会ではすべての議案を全会一致で承認。新年度事業計画として、現在リニューアル作業中のホームページの本格運用、エンドタブ検定試験の近県への普及などを掲げた。



今年4月から改正性能評価基準を適用

—入熱・パス間温度規定の一部追加など—

鉄骨製作工場の性能評価基準が一部改正され、今年4月1日から適用開始される。今回の鉄骨製作工場の性能評価基準改正は、2000年11月の認定審査受付の開始から10年を経過、その間に新たに建築基準法や日本工業規格(JIS)等が改正され、また、これまでの性能評価業務の経験を踏まえて審査項目及び審査内容等に対する見直し論議もあり、国土交通省や全国鉄骨評価機構など関係者間で鋭意、改正作業が続けられてきたもの。

なかでも業界内部の検討は全国鉄構工業協会の技術委員会による性能評価制度の研究、鉄骨製作工場の性能評価基準の関する研究が06年9月から本格的に取り組み、07年11月の第2回全国大会(横浜開催)で研究要望書を採択した経緯がある。とりわけ焦点となったのは、現行の性能評価における工場生産量のもとより、技術者・技能者の員数及び製造設備の数量などで、「いわゆるグレードにおける規模の概念が(従来と比較して)不明瞭」という意見も少なくなく、改善を求めた同要望書の取り扱いが大いに注目さ

れた。具体的に変更となった際、新旧グレードが混在することになり、その経過措置なども検討課題とされたが、結局、国土交通省は09年3月、現在の景気動向や社会的情勢を踏まえて「変更せず、現行通り」との判断を下した。

新たな資格者の増員や生産設備の増設は、一部の企業に新たな経営負担を強いる可能性があり、景気低迷と厳しい業界環境と雇用対策等に配慮したためとされるが、これにより、業界内部で長年にわたって議論されてきた「規模の概念」を含む数々のテーマは事実上、次回改正まで「先送り」となり、今回の改正において現行基準の骨格・構成そのものの大きな変更は実施されないことになった。

ただ、運用開始からの10年間の鉄骨製作面における技術的な進展や審査業務の経験を踏まえて、現行の一部が改正された。具体的には日本工業規格(09年2月改正)のJIS Z 3312(軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ)及びJIS 3313(軟

鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のアーク溶接フラックス入りワイヤ)を踏まえ、た入熱・パス間温度規定の一部が追加となった。内容的に日本建築学会鉄骨工事運営委員会の鉄骨構造建築物における主なワイヤの使用区分(解説)が盛り込まれ、現行の「入熱:40kJ/cm以下、パス間温度:350℃以下」に対し、「400N級については入熱:30kJ/cm以下、パス間温度:450℃以下」が追加された。また、製作実績リストについて、工事物件ごとの最大板厚(開先を取る部材)の記入が追加(全グレード共通)され、その運用での確認では「申請グレードの最大適用板厚の1/2程度の実績があることを原則」とした。さらに工作や検査基準など社内基準書類が工場の実態に即した内容かどうか厳格に整備されたほか、全体的に基準内容そのものの表現や用語の統一性が図られている。

全国鉄骨評価機構は昨年3月に、国土交通省に改正案を提出して以降、鋭意、最終調整を進めているが、現行案で概ね変更はない見込み。

解説表2-鉄骨構造建築物における主なワイヤの使用区分^{a) b)}

適用鋼材の引張り強さ	ワイヤの種類 ^{c)}	溶接条件		(参考) 主なワイヤの種類
		入熱 ^{d)} KJ/cm	パス間温度 °C	
400MPa級	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	15~40	≤350	T490T1-1CA-U
	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	15~30	≤450	T490T1-0CA-U
490MPa級	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	15~30	≤250	T490T15-1CA-U
	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	15~40	≤350	T550T15-1CA-U
520MPa級	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	15~30	≤250	

注

- a) 社団法人日本建築学会 鉄骨工事運営委員会のデータに基づく。
- b) ロボット溶接には、適用しない。
- c) Tx:使用特性の記号:T1、T5又はT15
y:適用溶接姿勢の記号:0(下向及び水平すみ肉)又は1(全姿勢)
- d) 記号Aは、APであっても溶接のままでの性能が確保されるので、構わない。中間層の入熱は、平均値とする。

活発な事業活動を展開

全国Mグレード部会

全国Mグレード部会連絡協議会は昨年5月8日、千葉県内のホテルで通常総会を開催し、「代替タブの溶接資格制度」を盛り込んだ事業計画を承認した。

総会には1都6県の会員約40名が参集、役員改選で会長に堀川勝氏(杉山建設工業専務=千葉県)を選出、新副会長に石井二三夫氏(石井鉄工所社長=神奈川県)と小又正和氏(小又工

業社長=栃木県)が就任した。

引き続き、「代替タブの溶接資格制度」と「軸力計キャリブレーション」などのグループディスカッションを行い、当組合が実施している「Mグレード以下の実務を想定した」独自の代替エンドタブ技量検定、高力ボルトの軸力検査の省略などについてグループ討議が行われた。



全国R・Jグレード部会

全国R・Jグレード部会連絡協議会(会長=松枝建次・松枝興業常務)は昨年9月16日、当組合会議室で役員会を開き、事業計画などを協議した。

また、組織と活動内容などの対外的なPRを目的とした情報紙の発行を提案、満場一致で可決され、12月をめぐりに、現在の組合員に対し、創刊号を発行する。情報紙は仮タイトルを「かしめ」とし、年4回程度の発行でインターネットを利用し会員に配信する予定だ。今後、内容や配布先など詳細を各地域で協議することになる。

地区会員名簿

東地区(24社) 地区長 富士工業(株) 柳本 幸治

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	那須ストラクチャー株式会社	H	9	株式会社 中川鐵工所	M	17	林鉄工 株式会社	R
2	アイ・テック	H	10	中央鋼材 株式会社	M	18	三進建鉄 有限会社	R
3	株式会社 飯田製作所	M	11	中央ビルト工業 株式会社	R	19	株式会社 市川スチールエンジニアリング	R
4	株式会社 中込工業所	M	12	城北工業 株式会社	R	20	株式会社 コイワ	R
5	株式会社 前田製作所	M	13	鈴木鉄工建設 株式会社	R	21	株式会社 長谷川工業	R
6	吉岡工業 株式会社	M	14	有限会社 高市工業	R	22	ヤナセ工業	未
7	株式会社 谷村製作所	M	15	株式会社 角鹿鉄工	R	23	株式会社 奥村鉄構	未
8	富士工業 株式会社	M	16	株式会社 利根川鐵工所	R	24	有限会社 矢萩鉄工	未

中地区(13社) 地区長 わくた工業(株) 涌田 好司

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	池田鉄工所 株式会社	M	6	有限会社 修和鉄工	M	11	有限会社 大橋鉄工所	未
2	松田鋼業 株式会社	M	7	井上鉄工 株式会社	M	12	株式会社 帝都建工	未
3	わくた工業 株式会社	M	8	株式会社 三侑鉄工	M	13	株式会社 テッコー	未
4	東京建鉄 株式会社	M	9	有限会社 金谷鉄工所	R			
5	株式会社 鎌建工業	M	10	小久保鉄工 株式会社	R			

西地区(24社) 地区長 (有)坂爪建鉄工業 坂爪 幸男

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	叶産業 株式会社	H	9	有限会社 天野鉄工所	R	17	株式会社 栗野鉄工所	R
2	川岸工業 株式会社	H	10	株式会社 一本木鉄工	R	18	株式会社 山上建設工業	R
3	株式会社 矢嶋	H	11	株式会社 酒多鉄工所	R	19	株式会社 小室鉄建	R
4	株式会社 石郷岡工業	M	12	有限会社 坂爪建鉄工業	R	20	近藤鉄工 株式会社	未
5	小島工業 株式会社	M	13	島崎工業 株式会社	R	21	株式会社 佐々木鉄工所	未
6	日本鉄構建設工業 株式会社	M	14	有限会社 中央製作所	R	22	株式会社 敏鉄工	未
7	井戸建鉄 株式会社	M	15	有限会社 橋本鉄工	R	23	株式会社 高水鐵工	未
8	株式会社 かしや建設	M	16	株式会社 河村鉄工所	R	24	有限会社 藤本鉄工所	未

東京鉄構工業協同組合協力会員名簿

	会社名	〒	住所	TEL	FAX	代表者 担当者	役職	業種・取扱商品
				E-mail				
幹事	大日本塗料販売(株) 東京営業所	144-0052	東京都大田区蒲田5-13-23 TOKYU REIT蒲田ビル8F	03-5710-4501	03-5710-4520	宮本 和夫 岡本 裕介	課長	全構指定塗料 錆止め塗料
				mayamoto-ka@star.dnt.co.jp				
幹事	大同生命保険(株) 首都圏地区営業所	103-0027	東京都中央区日本橋 2-7-4 NOF日本橋本町ビル6F	03-3667-8021	03-3667-8022	澤村 茂樹 岩堀 彰	営業本部長 営業推進部長	生命保険 共済保険
				iwahori.akira@daido-life.co.jp				
監査	ダイニツカ(株) 東京支店	104-0032	東京都中央区八丁堀 1-9-5	03-3552-3163	03-3552-3162	高岡 鉄也 川路 幸祐		全構指定塗料 錆止め塗料
				t-takaoka@star.dainikka.co.jp				
会長	富士見興業(株)	166-0003	東京都杉並区高円寺南 1-27-11	03-3314-1430	03-3314-5819	石塚 勲 浦生 紘一郎	代表取締役 部長	高圧ガス、溶材 機械、工具
				honbu@fujimikougyo.co.jp				
幹事	(株)アマダマシンツール	224-0025	神奈川県横浜市都筑区 早瀬1-28-18	045-594-1923	045-591-9460	橋本 文夫	副本部長	パソナ用アブレド
				fumio.hashimoto@amada.co.jp				
会計	(株)ファーストクルー	111-0053	東京都台東区浅草橋 5-24-6NBK浅草橋ビル6F	03-5822-3544	03-5822-3554	鈴木 康 辻川 高士	代表取締役 課長	鉄骨専用 CAD/CAMソフト
				fast@fastcrew.co.jp				
	(有)秋山商会	192-0151	東京都八王子市上川町 1128	042-654-7530	042-654-0777	秋山 弘志		クレーンリース
	加研工業(株)	136-0071	東京都江東区亀戸 5-23-6	03-3684-8031	03-3684-8042	吉川 由巳 高橋 亨	代表取締役 取締役	研削砥石製造販売
	サンコーテクノ(株)	270-0107	千葉県流山市西深井 1296-16	04-7178-3500	04-7178-5100	小西 隆夫 中村		建築金物製造販売
	(株)昭和塗料商会	101-0051	東京都千代田区神田神保町 2-28 3510ビルFA室	03-3265-8951	03-3262-4570	伊東 勝美 渡辺 高紳	所長 課長	塗料販売
	(株)星和	121-0052	東京都足立区六木 2-6-27	03-3605-0817	03-3605-3521	北嶋 重司 星野 傳弘	専務取締役 常務取締役	鋼材、建築資材 ボルト、ナット、仮設機材
	(株)東栄化学	192-0032	東京都八王子市石川町 2973-3	0426-31-3801	0426-31-3808	中村 正二 宮阪 直樹	代表取締役	高圧ガス
	所沢資材(株)	359-0032	埼玉県所沢市若松町 852	04-2992-0231	04-2998-0570	本橋 孝義 小高 進一	代表取締役	ベースバック ハイベース
	中村鉄興(株)	359-1164	埼玉県所沢市三ヶ島 1-478	04-2948-0610	04-2949-2209	中村 弘田郎	代表取締役	切り板 孔あけ
	野村産業(株)	206-0812	東京都稲城市矢野口 786-1	042-377-6352	042-378-0655	野村 俊明	代表取締役	高圧ガス、溶材機器 ハイテンションボルト
	フルサト工業(株)	362-0808	埼玉県北足立郡伊奈町 大字小針新宿中島1295	048-728-8861	048-728-8868	丹羽 新六	所長	鉄骨副資材 ボルト
	(株)丸和	279-0025	千葉県浦安市鉄鋼通り 2-6-8	047-304-0811	047-304-0819	中畑 守弘 阿部 孝典	代表取締役	鋳鋼板専門 鋼板加工
	美鈴印刷紙工(株)	135-0033	東京都江東区深川 2-24-11	03-3643-4485	03-3642-3265	飯島 隆典 佐藤 智輝	代表取締役 係長	印刷・原寸用フィルム 製造販売
	有修溶工(株)	136-0071	東京都江東区亀戸 9-35-16	03-3637-6251	03-3637-6253	浪花 俊勝	代表取締役	スタッド溶接工事 材料販売
	東京電気通信(株)	162-0065	東京都新宿区住吉町 1-19 サトクラ曙橋ビル	03-3356-9071	03-3356-9354	岡部 直樹	課長	情報システム総合プランナー NTTコミュニケーションズ-札幌

編集後記

私が東京の組合事務局に勤めるようになって2年が経過しようとしています。

このわずかの期間に鉄構業界を巡る環境が激変しました。2010年の鉄骨需要量は、バブル最盛期の約1/3の400万トンとなり、全構協の加盟会員

も4300社から2400社と大きく減少しています。鉄骨の受注単価も90年頃の水準(約34万円/トン)からはほぼ半減状態となっているのが実態で、これは、人件費や資格取得・維持、そして昨今の鋼材等材料の上昇、トレーサビリティの管理負担増加など考慮すれば、現状の環境で鉄骨加工業を経営できるものでは到底ありません。経営が成り立つことが世界の七不思議と言っても過言

ではありません。

こんな低単価を押し付けるゼネコンの管理者の「人間の尊厳を無視した」行為に対して恐怖さえ感じます。しかし、このような低単価の契約が成立するのは、受注側であるファブが存在するからです。たとえば悪いが、「薬物に手を出す」それと似ています。採算を無視した受注を拒否する勇気が今こそ試される時です。(加藤哲夫)